



さんさん山城の農福連携

## 誰もが仕事を通して地域の担い手になる

近年、農業と福祉を結びつけてそれぞれの課題を一括して解決しようとする「農福連携」が広がっています。京都府でも本年5月に「きょうと農福連携センター」が開設され、農業による障害者の就労機会の創設や地域住民と交流をする居場所づくりを行うことにより、「共生社会」の実現を目指した京都式の取り組みを進めていこうとされています。今回、早くから「農福連携」の取り組みを行ってこられ、平成27年に国より「農福連携モデル事業所」（全国9事業所）の一つにも選出された京都聴覚言語障害者福祉協会の山城就労支援事業所「さんさん山城」（京田辺市）の実践を紹介します。



### 地域と関わりながら楽しく仕事をする

さんさん山城は聴覚障害などがある障害者の就労支援施設として平成23年に開所し、当初から利用者が地域の人と関わりながら仕事をするのが意識的に追求されてきました。開所時から関わってきた職員の藤永実さんは次のように語ります。

「周辺一帯は農地や緑地など自然がたくさん。恵まれた環境ながら、農家は高齢化が進み、後継者不足は深刻で耕作されなくなった農地も少なくありません。私たちには農業の知識も技術もありませんでしたが、幸い人手はいます。人手を要する農業と地域に根ざした仕事をしたい私たちがうまく結びつけば、地域経済の活性化に役立つと考えたのです」

「産地担い手養成塾」（京田辺市の生産者組織が中心となり、

JAや市・府が連携・協働して開設）に職員と利用者が参加して、ベテラン農家から栽培・収穫・出荷に至るノウハウを学び、京都えびいも・京都田辺茄子の栽培へとチャレンジの幅を広げてきました。また、お茶農家から引き継いだ茶畑を再生させた宇治茶を栽培し、手摘み収穫もおこなっています。現在は「えびいもコロッケ」「濃茶大福」「抹茶フッキー」「田辺なすジャム」など数々の加工品も開発・販売し、これらは地元京田辺市や近隣の地域で人気商品となっています。

今年に入って施設内に一般利用も可能なコミュニケーションカフェをオープンし、6月にはとれたて野菜を利用したランチメニューもスタートさせました。

### 主役は職員ではなく利用者

宇治茶・えびいも・京都田辺茄子の栽培・加工・販売まで一貫して行うことにより、誰もが活躍できる場を用意することができます。畑作業を行う人、出

荷作業を行う人、加工品を作る人、コミュニケーションカフェで調理や接客を行う人、イベントなどに出席して販売を担当する人など様々です。

職員の新免修さんは「ある利用者

は、幼い頃からずっと家の畑を手伝い、非常に高い農業技術を有していて、その知識や経験を遺憾なく発揮しています。また別の利用者は接客が得意で、模擬店ではいつも前面に立って販売しています。みんなが個々の能力を発揮して仕事をすることが利用者自身の誇りにつながっているのではないのでしょうか」と言います。利用者の鶴ノ口信男さんや松平和也さんは「農業は楽しい。自分たちが作った野菜で喜んでもらえるのはうれしい」と満面の笑顔。利用者の多くは聴覚障害者ですが、知的障害や精神障害がある人も

いて、異なる障害がある人といっしょに作業を行うことでいい刺激を与えています。利用者の安全面については、施設から離れた農園での夏場の作業は気温がまだ高くない午前中に限るなど、利用者の健康状態に配慮した作業スケジュールを組んでいます。

また、さんさん山城ではコミュニケーションカフェを地域に開放して、コミュニケーション拠点としての役割も大きくなってきています。子育て支援や環境保護などの市民団体が場所を借りて活動しており、そこでも職員・利用者や地域住民の交流があります。

### 「さんさん山城が地域にあってよかった」と言われるように

地域において、さんさん山城の存在感はますます大きくなっています。

京田辺市役所農政課の伊藤臣亮さんによれば「さんさん山城の利用者は支援される障害者ではなく、地域経済の活性化に役買う農家の担い手さんであり、貴重な人材。就労支援事業所といえは屋内作業が多いのですが、こちらは畑に出て農作業をされ

るので、地域住民にとっても親近感があり、互いに理解が深まるのでは。コミュニケーションカフェにより、さらに地域に開かれた施設になったと思います。山城北農業改良普及センターの寺岸明彦さんは「非常に勉強熱心で、農業と商業を結びアグリビジネス講座にも出席されています。農業を通じて地域貢献、農業を軸にした産産連携のよいモ

デルです」と語ります。

さんさん山城は地域住民の貴重な活動場所にもなっています。コミュニケーションカフェを利用してランチ交流会などを行うNPO法人そよかぜ子育てサポートの村坂美世さんは「地域の三世代が集えるさんさん山城はランチ交流会の場所にぴったり。さんさん山城の皆さんと地場野菜を使った料理を提供できます。食事があった方が会話も進むし交流も深まります。今後はランチ交流会だけでなく、地域の人と人を結び、さまざまなイベント

で利用できそうです」と夢がふくらみます。「さんさん山城が地域にあってよかった」。藤永さんや新免さんは、こう言ってもらえるようにがんばりたいと意気込んでいます。

障害者と地域が仕事を通じてどのようにつながればいいのか。さんさん山城が地域の特性を考慮して出した答えは「農福連携」でした。こうした障害者と地域の自然な交流が「地域共生社会」の土壌を豊かなものにし

ていくのではないのでしょうか。障害者が農業や地域コミュニケーションづくりの担い手になって地域を支える時代は、すでに始まっています。

**DATA**  
社会福祉法人  
京都聴覚言語障害者福祉協会  
就労継続支援B型  
山城就労支援事業所  
「さんさん山城」  
〒610-0322  
京都府京田辺市興戸小モ詰18番1  
TEL. 0774-39-7113  
FAX. 0774-65-4102



京都田辺茄子の出荷作業



藤永 実さん



新免 修さん



宇治茶を使ったお菓子  
濃茶大福、抹茶フッキー



ランチ交流会の様子